



- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話0267-56-3131 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話0267-56-1076 (呼)
- 立科町児童館/
午前11時50分～午後1時40分
電話0267-56-0303 (直通)
(担当 指導主事 中島一彦)

指導主事だより

なんだかうれしい

教育委員会

立科小学校三年生の授業を参観しました。友だちの書いた「本〔民話〕の紹介文」を読み、その感想文を友だちに贈るという学習です。

授業を見ながら驚いたことがあります。

友だちの書き上げた感想文を読み続ける子どもたちの集中した取り組みです。

文字を指さしながら読む子、原稿を両手に持ちながら読んでいる子、周囲に気づかいしながら読み上げる子等。

どの子にも与えられた学びの時間、そして学びの場所が位置づいていました。

感想文は、書いた子の机の上に置かれています。その置かれた場所に移動し、仲間の作品を読み込んでいく子どもたち。感想を書き上げると、次の席に移動していきます。

早く仕上げたいではなく、たくさん書き上げるといふことでもなく、じっくりと作品に向かい続けています。



心に届いてくる



【Nさんの紹介文】～前半部省略～
 わたしがしょうかいするお話は、「かさじぞう」です。
 わたしが、おもしろいと思ったのは、
「よういやさ よういやさ よういやさ」です。
 おじぞうさまがものをばこぶなんて、やさしいし、おもしろい
 です。それと
「すっぼり めしを さくさく食べて、寝てしまいましたと」です。食べ物がない、これしかないんだなあと思
 っているみたいで、わらえてくるからです。

【Sさん】から
 ○「すっぼり めしを さくさく食べて、寝てしまいました」というところが面白い。

【H君】から
 ○「よいさな よいさな よいさな」です。なぜかというリズムがおもしろかったからです。

【Gさん】から
 ○おじぞうさんがものを運んでくるのっておもしろい。
 ○分かりやすくかいていて良かった。

【Iさん】から
 ○四つにわけられて分かりやすい。
 ○「よういやさ よういさ」がいていい、よくわかってる。

【R君】から
 ○「よういやさ よういや」、ぼくもおじぞうさまがやさしいな」って思いました。
 ○かさが売れなかったなんてかわいそう。

上記は、Nさんの紹介文に寄せられた子どもたちの感想です。五人の子どもたちがメッセージを贈ってくれていました。

ゆっくりと読んでみる。声を出して読んでみる。

読むことによって、自分の心に届いてくる何か、心に響いてくる何か・・・を感じながら、もう一度読んでみたくなる。

届いてくる何かに耳を澄ませる子どもたち。そして、その届いてくる何かを文章と言う形で綴り始める子どもたち。学び合いのある授業と言う営みを通して、「貧しさを笑いに変えるおかしみ」「リズムある独特な表現」等たくさんの豊かな感情や表現に目が向き、きめ細やかさが増していきました。

授業の終末にGさんが語ってくれます。

「みんなが、私の紹介文を読んで、考えて、一生懸命感想文を書いて寄せてくれて、うれしい」と。何ともさわやかなものを感じ、

○人と人をつなげること。 ○互いに理解し合い、心を受け止め合うということ。

子どもたちの学びから、言葉本来の目的を思わされたのです。